

2021年12月27日

関係各位

公益財団法人 北海道サッカー協会

審判委員長 柳元 良文

フットサル委員長 永野 秀之

フットサル競技における競技者の靴底の色について

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、標記につきまして、最近、複数の地区協会からお問い合わせをいただいておりますので、下記の通りお知らせいたします。

記

1 問い合わせの内容

別紙のような靴底の靴（飴色とも言えるが、靴底に「No Marking」の記載があるもの）について、一般的なフットサル競技会における開催要項（競技会規定）において規制される靴底の色（接地面が飴色、白色、もしくは無色透明の ～（中略）～ スパイクシューズおよび靴底が着色されたものは使用できない。）として、問題があるか否か。

2 HKFA審判委員会及びフットサル委員会の見解

別紙上部①に掲載の靴底の色についてJFAに問い合わせたところ、「オレンジ色に着色されており、一般的な競技会規定には抵触するため、各種全国大会での使用は認められない。」との回答がありました。

ただし、北海道内の競技会においては、グラスルーツのプレー機会を確保する観点から、飴色の範疇に含まれるものと解釈し、積極的に認めることはしないものの、試合前の用具チェックの段階でこの靴の着用が判明しても、出場を認めることといたします。

なお、上記の通り、全国大会での使用が認められないことには、くれぐれもご注意ください。

②については靴底に「No Marking」の記載はありますが、そもそも問題のない色の靴底であると考えます。

今回は、上記2件の事例についての見解となりますが、今後も新たに判断に迷う事例が発生した際には、グラスルーツにおける競技者のプレー機会を極力奪わないという観点でご判断いただくよう、お願いいたします。

3 本件に関する問合せ先

（公財）北海道サッカー協会審判委員会 フットサル部長 佐々木 琢至

E-mail office-sasaki.2005@extra.ocn.ne.jp

以上

(別紙)

①



「No Marking」の表示

②

